



2017 J2 順位表 第41節

勝点、得点、失点、得失点差、岐阜戦の戦績 (岐阜から見て)

1	湘南	81p	56	34	+22	A△	
2	長崎	74p	52	39	+13	H△	A●
3	名古屋	72p	83	62	+21	A△	H●
4	福岡	72p	52	34	+18	A●	H●
5	松本	65p	60	43	+17	H●	A●
6	徳島	64p	69	43	+26	A△	H●
7	東京V	64p	61	48	+13	A●	H●
8	横浜FC	62p	58	46	+12	H●	A●
9	千葉	62p	65	57	+8	H●	A○
10	大分	61p	56	48	+8	H●	A△
11	京都	54p	54	46	+8	A△	H○
12	水戸	54p	44	45	-1	H○	A○
13	岡山	53p	42	47	-5	A△	H△
14	山形	53p	40	46	-6	H△	
15	町田	49p	52	51	+1	A○	H●
16	愛媛	47p	49	65	-16	A●	H○
17	岐阜	45p	54	63	-9	---	---
18	金沢	43p	43	65	-22	H○	A△
19	讃岐	38p	40	56	-16	A○	H●
20	熊本	37p	34	53	-19	H●	A△
21	山口	34p	46	68	-22	H△	A○
22	群馬	20p	29	80	-51	A○	H○

today's guest : 湘南ベルマーレ

2016 J1 7勝6分21敗 勝ち点27:17位

直近の対決と結果

2017/04/15
J2-05節@BMWス

湘南 3-3 岐阜

福村貴幸, OwnGoal,
庄司悦大 scored.

ここ3試合の公式戦の結果

FC岐阜		湘南ベルマーレ	
2017/11/05 J2-40節@石川西部 金沢 1-1 岐阜		2017/11/05 J2-40節@レベスタ 福岡 2-1 湘南	
2017/10/29 J2-39節@松本 松本 2-1 岐阜		2017/10/29 J2-39節@BMWス 湘南 1-1 岡山	
2017/10/21 J2-38節@長良川 岐阜 1-2 東京V		2017/10/21 J2-38節@BMWス 湘南 1-0 愛媛	

●残り5試合となった2017年J2リーグ。10/21(土)第38節に7位・東京Vをホームに迎えたFC岐阜。先制されるも追いついた岐阜だったが、1-2で競り負けてしまった。続く10/29(日)第39節は、アウェイに赴いて7位・松本と対戦。セットプレーで先制したが、松本の2回のセットプレーで逆転を許してしまう。1-2で敗れた岐阜は3連敗そして10月末勝利となってしまった。そして11/5(日)アウェイ第40節は、直近下位の18位・金沢との一戦は、前半に先制を許すが追いつく岐阜。しかし両者とも決め手を欠き、そのまま1-1で引き分けとなった。

4連敗は逃れた岐阜だったが、これで7試合未勝利・ホーム戦4連敗となってしまった。順位は17位と変動はないが、残り2試合では最大でも13位・山形には届かないし、19位・讃岐に追いつかれることもない。つまり、今季の岐阜の順位は、現時点では14位~18位が確定したということになる。過去最速でJ2残留を決めたのは喜ばしいが、シーズン当初に掲げた「一桁順位」には及ばなかった。この悔しさをバネに残り2試合、来季に繋がる試合をして欲しいところだ。

さて、今節の対戦相手は湘南ベルマーレ。2年ぶりにJ2に降格したが、今季はシーズン序盤から優勝争いを演じ続け、既に今季のJ2優勝と来季のJ1昇格を決めているチームだ。前節は福岡に敗れており、また来季を見据えてメンバー変更も想定されるが、それでも今季J2王者は難敵に間違いない。前線から走って守備をし、高い位置でボールを奪って素早く攻撃を仕掛ける「湘南スタイル」と呼ばれるアグレッシブな戦術は、6年目となる曹貴裁監督の元で、さらに磨きがかかっている。これまでの湘南との通算対戦成績は、岐阜の1勝6分6敗・17得点30失点と圧倒的に分が悪い。ホーム戦だけを見ると、1勝3分2敗・8得点9失点と若干よくなるが、湘南に1勝しかしていないという点では同じだ。岐阜の「大木サッカー」と「湘南スタイル」ともに攻撃を重視しており、前回対戦した4/15(土)第8節・アウェイでは、3-3と点の取り合いで引き分けだった。どちらの攻撃の歯車が噛み合うかで、試合結果は大きく異なるものになると思われる。両チームの中盤でのボールの激しい奪い合い、素早い攻守の切り替え、そして勇気をもったシュートの撃ち合いに注目だ。

湘南で最も注意すべき選手は、やはり1トップを張る#9ジネイだろう。しかし、その首位チーム得点王でも12ゴール、リーグランキングでは15位だ。今年の湘南は、総得点が56で岐阜の54とそれほど変わらない一方で、総失点が34と、岐阜の63の約半分でリーグ最少失点なのが特徴だ。堅守・堅実な試合運び、そして選手全員で勝ち点を積み上げてきたチームといえるだろう。一方の岐阜は、#2阿部正紀と#6シシーニョ、2人のレギュラーが累積警告で欠場となり、大変厳しい状況だ。しかし、替わりに起用される選手を含め、チーム全体でホーム戦最後の試合に相応しい、王者湘南を圧倒するような気迫に満ちた試合展開を期待したい。

全42試合、長かった2017年J2リーグも、いつの間にかこれがホーム最終戦だ。残念ながらシーズン目標は達成できなかったが、やはり最後のホーム戦は勝利で終わりたい。そのために今節も、最後まで選手の後押しをする拍手と声援を送ろう。それが必ずや、来季のFC岐阜の躍進に繋がるはずだ。

(ささたく)

今シーズンも
ご愛読いただき
誠に
ありがとう
ございました。

大酒場 ホームラン

名鉄岐阜駅前 (三菱東京UFJ銀行隣り)
年中無休 午後3時から営業

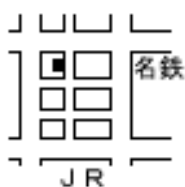
TEL.058-263-5201



本庄工業株式会社
<http://www.honjo-woodream.com/>

岡田歯科医院

岐阜市加納新本町1-23
tel:058-273-8998



「いらっやいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。
『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から
徒歩3分。
休:月曜日

投稿募集 !!

gidaidohri@gmail.com

【第38節】岐阜 1-2 東京V

●う～ん……。なんというか、物足りない。ゴール裏からそんな感想を抱いていたんだけど、DAZNで見直してみると、ウチもチャンスはあったんだな、と。試合中にはキョーゴの得点シーンしか決定機はなかったような印象があって、いったい、ボクは何を見てたんだ？と反省した次第。それだけ東京Vの方が攻撃に迫力があって、何度となく肝を冷やされたからだ。言い訳ですが（苦笑）。

ただ、ここぞ！という時の縦へのスピードとPA内に侵入してくる選手の数。そこに明らかな差があった。それだけは断言していいんじゃないかな？あとは、さすがランキング上位に付けるFWの得点力。ボール支配率が上回ったとはいえ、今季のウチにしては低い数字。サイドや後ろでのパス交換が目立ったような気がする。ウチのよくない面が出たということだろう。決勝点の場面で、ゴール裏からでもわかるくらいポッカー真ん中が空いていたのは翼が上がったスペースだったのか。ボクが気づくくらいだから狙われるのは当たり前か。悔しいけれど、内容的には順当な結果なのかな。切り替えるしかないね。（ぐん）

【第39節】松本 2-1 岐阜

●10月も終わりに近づき、しかも台風が接近中の松本は、想像以上に寒かった。しかし、“あの”借りを絶対に今年中に返しておかねばと乗り込んだアルウィンだったのだけど…。試合は、序盤から想定どおり、岐阜がポゼッションでボールを動かし、松本がカウンターを狙う展開。この手法は徳島と同じだったけれど、徳島ほどプレッシャーが厳しくないため、ある程度はボールを回せる岐阜。お互いに決定機を逃しつつ、前半が終了。後半に入ると暴風圏の影響で、雨足も激しくなる中、CKの混戦で#7田中パウロ淳一が押し込み、先制点！しかし、FKで同点、そして逆転……。試合展開では優位に運びつつも、しかし、堅守の松本にしっかり守備を固める時間を与えておいて、そこから攻めたとしても、その防御壁を打ち破れる“火力”は、今季の岐阜には残念ながら無い。それに、雨が降っているのだから、もっとミドルシュートを撃つて、ゴール前でのトラブルを狙っても良かったのではないだろうか。前節にも感じたのだけれど、これが、プレーオフを争っているチームと、そうでないチームとの差なのかもしれない。試合が終了し、逆転負けして、ずぶ濡れで冷えきった身体のまま、大雨の中を帰路に。恵那山トンネルを抜けて岐阜県に入ったら、それまでの豪雨が嘘のように、穏やかな夜だったのが、せめてもの救いだった。（ささたく）

●まずは、台風22号の影響の中で最後まで戦い抜いてくれた選手に拍手を。次いで、彼らを支えてくれたスタッフ、関係者の方々、そして、現地参戦された岐阜サポの皆さんに敬意と感謝を表します。ありがとう！お疲れ様でした。台風に加え、中央道が工事渋滞と聞きました。本当にお疲れ様でした。結果は伴わなかったけど、DAZNで見てもアツい試合でした。あの場にいらなかったことを、とてつもなく残念に思っています。

アルウィンと台風は2回目かな。開催出来てよかったのか、延期してくれた方がよかったのか。この試合に参戦しなかったボクには何とも言えない。ただ、ピッチ上に特段の影響があるようには見えなかった。逆に、この悪天候の中でウチの選手達が見せてくれた内容は、誤解を恐れずに言うと「今季の集大成、完成形」ではなかったか。あるいは、身長は伸び切った。骨格は出来あがった。あとは、肉付け。そんな気がした。手放してホメすぎか？開幕当初からのパス回しに加え、執拗なまでの中央をこじ開けんとするパス交換。ショートパスド

ころか、手渡しできるんじゃないか？と見まごう位置でのパスにスマホを見ながら興奮してました（笑）さらに、スキについての正紀のミドル。相変わらず（苦笑）枠には飛ばなかったけど、相手GKにとってはキケンなシュートだったと思います。やるべきこと、やりたいことはすべて出せた。そんな気すらしました。あとは、得点、そして結果だけ。先取点を泥臭く、しぶとく決めてくれたパウロでしたが、やはり、前半のアレを決めてほしい。少なくともGKが手を一杯伸ばさなきゃ届かないような位置へ。それと、シシのボレーね。どうして、決まらないのかな？アレが。シシは本当に惜しいシュートばかりだ。なんとか、残りの試合でゴールを量産、と思ったら無情の2試合お休みですか……。しかたない。最終節のアウェイ山形戦で暴れていただきましょう！しかし、この試合の内容を続けていければな。来季も楽しみなんだけど……。いや、来季は今季が済んだあとにしよう。まずは金沢戦。今度は現地に駆けつけますよ～！（ぐん）

【第40節】金沢 1-1 岐阜

●前節・アウェイ松本での苦い経験（苦笑）から、防寒装備を充実させて乗り込んだ金沢。そして、早くから「茶屋街（岐阜で言う屋台村）」に並んでスタグルを堪能しているのは、明らかに岐阜サポの方が多い（笑）。昔は岐阜サポもスタジアムに集まるのがもっと遅かったから、このあたりは経験の差なのかな……。

さて、試合展開は……。松本戦の時も感じたけれど、残念ながら、それ以上にミスが目立つ。シーズン終盤、選手に疲労が溜まっているから仕方ない面はあるとしても、集中力を欠くプレーでパス成功率が落ちている中で、ショートパス主体の遅攻サッカーは致命的だ。何度も自分たちのミスからボールを奪われ、ピンチを招く。そして、サイドを切り裂かれ、クロスを上げられると、どフリーにさせた金沢の#9佐藤光一のヘッドで先制点を献上……。僕ら古くからの岐阜サポにとって、一番決められたくない選手に決められてしまった。しかし、その後に金沢の守備が崩れた隙を、素早い攻撃でゴール前に運ばれたボールを、#14風間宏矢が隅に流し込んで同点ゴール！やはり、相手が守備を固める前に攻めきることが必要だと痛感したシーンでもあった。

後半になると、前半の反省を活かしてか、縦へのボール、長いパスを多めに用いるようになった岐阜が、試合を優位に進めるものの、やはりプレー精度が悪く、なかなか決定機まで持ち込めない。金沢も、#25ビクトルのビッグセーブなどで、決勝点を奪えない。結局、お互いに攻め手を欠いたまま、試合終了。17位・岐阜と18位・金沢が、勝ち点1を分け合う結果となった。

試合内容には不完全燃焼だったけれど、その後に、金沢の美味しい寿司をヤケ食い(?)したので、なんとか気が収まりました（苦笑）。こういうのも、遠征の楽しみのひとつです。（ささたく）

●なんというか、ちょいとばかり寒い試合になってしまった。週間予報では雨の可能性もあった日曜日。幸い、雨は前日までに上がり、週の半ばには前節のような天候も心配していたのがウソのような青空。3連休の方も多かったのか、かなりの岐阜サポが来場。1,000人くらいいるんじゃないか？とすら思ったけど、わずかに（笑）足りない600強。人数分の意気込みで、試合前から熱気がムンムン……。になればよかったんだが、晴れた分、風が強くなったうえに岐阜のゴール側は日陰。それを跳ね飛ばすような試合展開を期待したんだけどね。ボク自身も、もっと跳んで応援すればアツく慣れたとは思いますが、それだと膝が保たない（苦笑）。まあ、ボクのことはどうでもいい。平たく言うと「フラストレーションの溜まる試合」。残念なミスが多すぎた。金沢がキックオフからハイプレスを掛けてきてキツイところもあったと思うけど、チグハ

グ感は否めなかった。「今季の集大成の表れ」だと思った前節の半分も出来なかった。アルウィンでの厳しいコンディションによる疲れが、まだ残っていたのかな？特に、中盤でのボール奪取で後手を踏んだのはシシの不在が響いたのかも。しかし、金沢にがっぶり四つに組まれちゃって剥がすことができなかった。いつもなら、迫ってくる相手をイナシてかわしてパスを繋いでいくなだが、思ったようにはできなかった。そのせいか、ボール支配率が上回ったようには見えなかったな。いくら金沢が積極的にプレスを掛けてきたにせよ、徳島よりは……と思うんだけど、どうだろう？いや、まあ、よく考えたら順位はひとつしか違わないし、結果によっては上下が入れ替わるような状況なんで、順位通りの白熱した一戦……だったのかな？でも、やっぱり、いろんな意味で寒かったよ。たしかに、宏矢の同点弾は悠斗のパスから始まる一連の流れにはドキドキしたけど。大本の動き出しも抜群だった。ラストのパス出しが若干ぎこちなかったように感じたけど、決まったから問題ない！

結局、どうなんだろうね。よく追いついた、最後までよくしのいだ、引き分けの勝ち点1で上等。それが、正直な感想といってもいいんだけど、あんまり面白くない。なんかね、スッキリしない内容だった。

それでも、試合結果以外は楽しめた。長良川と比べたら数は少ないけれども、海産物などソソるものが多いスタグルもあれば、試合前とハーフタイムの茶番劇(失礼！)？コント？ヒーローショーにも笑わされた。ゲンゾイヤーとヤサガラスか。金沢の公式で配信されている動画もイイね。試合後に寄ったスタジアム最寄？の回転寿司屋もよかったし、来季のアウェイ金沢戦も楽しみだ。必ず行くぞ～！（ぐん、）

【ユース】G1リーグも大詰め

●我がFC岐阜ユースU-18（以下FC岐阜ユース）は今年G1リーグに参戦しています。岐阜県高校選手権大会の為にリーグ戦が中断していましたが、来週から再開されます。第17節は中池にて11/18（土）15時キックオフで現在2位の中京高校戦、第18節は笠松町のGFCにて11/25（土）10時キックオフで現在5位の岐阜工業戦がそれぞれ予定されています。第16節終了時点でFC岐阜ユースは勝点40。2位の中京高校は勝点35、3位の各務原高校は勝点34となっていますので、残り2試合で勝点2以上確保出来ればG1初制覇が決まります。少し公式試合の間隔が空いているのは不安材料ですが、Jユースカップで川崎フロンターレU-18相手に善戦した勢いで勝利を目指して欲しいです。そして12月に予定されているプリンスリーグ参入戦も突破して来季はプリンスリーグに進みましょう！

頑張れよ、応援しているからな！！FORZA！FC岐阜ユース！！

※試合会場・時間は変更される場合があります。必ず岐阜県サッカー協会やチームの公式サイトで確認して下さい。（シュナ）

【Jr.ユース】昇格ならず……

●この記事ではジュニアユースの話題を。今シーズンFC岐阜U-15は岐阜県U-15リーグ1部で優勝したので、愛三岐静の各県リーグの優勝チームを集めて開催された東海地域リーグプレーオフに参戦しました。4チーム中上位2チームが来季のU-15東海リーグに参加する事が出来ますが、4チーム総当たりのリーグ戦の結果、1勝2敗の3位となり、残念ながら昇格する事は出来ませんでした。残念無念。来年も県リーグを突破して、東海地域リーグへ挑戦して欲しいです。頑張れよ！！（シュナ）

【ホーム最終戦恒例】 今季のベストゲーム・ベストゴール・MVPは？

◆ベストゲーム

8節・アウェー湘南戦（4/15）

●勝ちゲームではないけど、今年最も興奮したのがBMWでの湘南戦。とにかく面白かった、楽しかった、超疲れた、でも最高！強豪湘南相手に一步も引かず（ていうか向こうがこちらをリスペクトしてくれてた感あったね）堂々打ち合い、結果は6ゴールが乱れ飛ぶ乱打戦。勝敗関係なく楽しめました。（cruyff）

31節・ホーム愛媛戦（9/3）

●やはり、ホームゲームから選びたい…ということで。前半は岐阜が先制し、後半は愛媛に追いつかれた、一進一退の試合を、最後は#24難波宏明の決勝ヘッドで勝ち越した、劇的かつ貴重な勝利でした。

でも、できたら、このホーム最終戦がベストゲームだと（昨年と同様に）言いたいです。（ささたく）

●確実に「これは負ける」と思った試合を勝った。ラックでなく勝った。岐阜が先制したものの、それすらも「想定内です」と見事な戦術変更を仕掛けてきて試合を追いつき、その後も圧倒的に攻め立てて来る間瀬・愛媛。ここを耐えて耐えて耐え抜いて、最後はユートのCKに難波さんのヘッド。一番「勝利の苦しみと喜び」を味わうことが出来た試合だった。（吉田 鑄造）

32節・アウェー水戸戦（9/9）

●ベストゴールの山口戦も捨てがたい。試合を支配し切って、ほぼ完璧な内容だったし。ただ、前半から数的優位になったおかげという側面もあった。逆に、この試合は入りがヒドかったけど、前半の悠斗のシュートからほとんどウチのターンにして、トドメがA・Tの翼の逆転弾！最高のエンターテインメント！アウェイ・水戸戦がここまでの一番ですね。

ただ、毎年書いてますが、ゴールもゲームも今日のホーム最終節が一番であることを心から期待しています！（ぐん、）

◆ベストゴール

No.17 大本祐槻 22節（7/9）ホーム京都戦

●享梧が細かいパスを挟みながらのドリブルで相手守備をひきつけ、最後は右サイドでどフリーになった祐槻が決める。今年の岐阜を象徴するゴールだから外せません。（cruyff）

『紅の豚』のポルコ・ロッソがニヤリとしながら「パスで崩すって、こういうことさ。」と呟くような、そんなゴール。左から仕掛けて、中でアクセントをつけて、大外の右側で大本がフリーに。そのパスのつながり方は、まさにラグビーのライン攻撃のようだった。（吉田 鑄造）

No.24 難波宏明 33節（9/16）アウェー山口戦

●今季もたくさんの歓喜を与えてくれた数々のゴール……。ひとつを選ぶのは難しい。その中で、J初ゴールがボクの誕生日プレゼントになった（笑）ホーム・水戸戦の享梧のゴールと最後まで悩んだけど……。やっぱり、このゴールに決まり！ダイビングした方向からは信じられない軌道を描き、「もしかして、ハズれた？」と思うくらいネットを揺らすまでが永遠にも感じたサヨナラ・ゴールに決めました！コレですよ。（ぐん、）

●試合を優勢に進めながら点が獲れずにいた88分に投入され、わずかに数分後の90分、DFラインとGKの間に侵入し、

今季の、そして来季の FC 岐阜へ。

放り込まれたボールをバックヘッドでゴール隅に流し込む、これぞ“ワンタッチゴール”のお手本。そのワンプレーで勝負を決めた“仕事人”ぶりも、強烈な印象でした(笑)。(ささたく)
●難ちゃんの超変態ゴール。なんであの方向からのパスをあんな方向へバックヘッドで飛ばせるのか、何度リプレーを見返しても理解不能(笑)うちの超変態ゴールといえれば2009年の横浜戦での押谷のジャンピングボレーを思い出しますが、変態度では今回の難ちゃんの方が数段上かな。(てつ)

◆MVP

No.6 シシーニョ

●普通なら、多くのピンチを防いだビクトルなんでしょうけれど、初めて日本に来て、日本語を一生懸命覚え、日本の文化を理解しようとし、Twitterで日本語でtweetするまでになったシシーニョに一票を投じたいと思います。

Gracias,sisi!

Quiero verte jugando fútbol en Gifu el próximo año

(岐阜の誇り)

No.10 庄司悦大

●去年のアウェイ維新、3点先行し楽勝ムードが、途中から出場した10番の選手がパスを回し始めた途端形勢逆転、最後は青息吐息の逃げ切りとなりました。その選手がうちに来てくれたということでシーズン前から大注目していたのですが、庄司悦大、期待以上の働きぶりでした。細かくパスを回していたかと思うと突然の正確なサイドチェンジで享梧を走らせたり、かと思えばビクトルの後ろでゴールライン上のクリアを見せたり、ビハインドの終盤には迫力満点の攻め上がりで元FWの片りんを見せてくれたり、まさに八面六臂の活躍でした。来年も大木サッカーの申し子であってくれ!(cruyff)

No.25 ビクトル

●大木サッカーの具現者・庄司。必殺のボール奪取!鮮やかなサイドチェンジ・シシーニョ。驚異の上下動!無尽蔵のスタミナ・大本祐槻。スピードスターにしてアシスト王・古橋亨梧。オマエが決める!ファイナルタッチャー・難波宏明etc……。候補者が多くて悩む。悩んだけど、やっぱり彼でしょ!

今季フル出場。いったい、何点防いでくれたか。彼以外でも止められるシュートはたくさんあった。でも、彼じゃなきゃ止められないシュートも雨あられほどあった。彼がいなきゃ、今頃降格圏内にいたかもしれない。もうね、この際岐阜に家買っちゃえ!(ぐん)

●今年は悩みました。#25GKビクトルと#6MFシシーニョ、どちらにするかを。しかし、やはり毎試合に数回(何度も?)、ビッグセーブでチームを救っている&DAZNの週間ベストセーブに選ばれ続けているという点が決め手となり、#25GKビクトルを挙げます。まあ、GKがMVPというのはチームとして如何なものかという素朴な疑問が拭えないのですが(苦笑)。2人とも、今年のJ2のトレンドのひとつ、“スペイン人”でした。来年も、まだ僕らの知らない“黒船(無敵艦隊?)”がやって来るのでしょうか?(ささたく)

●まったく悩まなかった。選択の余地なしで、彼です。彼のビッグセーブ連発がなかったら、例年のようにいまごろは20位と21位の境目あたりでJ3順位表を気にしていたことでしょう。(吉田鑄造)

●さて、J2参入10周年を迎えた2017年シーズンを、昨年は諸般の事情により(苦笑)やりませんでした、今年はいつもの如くデータで振り返ってみます(2017年は第40節現在)。

過去5年間の勝率は、

2013年	42試合	9勝10分23敗	・勝点37	(勝率0.21)
2014年	42試合	13勝10分19敗	・勝点49	(勝率0.31)
2015年	42試合	12勝7分23敗	・勝点43	(勝率0.29)
2016年	42試合	12勝7分23敗	・勝点43	(勝率0.29)
2017年	40試合	11勝12分17敗	・勝点45	(勝率0.28)

同じく過去5年間の、1試合あたりのチームの得点および失点は、

2013年	0.88得点	1.91失点	21 / 22位
2014年	1.27得点	1.45失点	17 / 22位
2015年	0.88得点	1.63失点	19 / 22位
2016年	1.12得点	1.70失点	20 / 22位
2017年	1.35得点	1.56失点	17 / 22位

今年は大木武監督を迎えての1年目。クラブ史上最速のJ2残留確定。昨年とは大幅に異なる、戦術に意図のあるサッカーを楽しんだような気がしていて、事実、得点・失点については前年より向上しているのですが、実は勝利数でいえば昨年よりも少なく、負けていたのが引き分けになったことで勝ち点が積み上がった、と分析せざるをえないのです。それに、ホームでは5勝4分11敗・29得点40失点で、アウェイでは6勝8分6敗・25得点23失点という成績は、あまり誉められたものでは…。来季は、もっとホーム戦での勝利・ゴールに拘ってほしいものです。

シーズン序盤は、J2では異端のポゼッションサッカーが注目された岐阜でしたが、次第に研究・対策がされている感が否めません。ショートパスで崩すのも一つの手ですが、もう少し長短織り交ぜた、横ではなく縦へのパスやドリブルでの切り込み、ショートカウンターやミドルシュートなども使わないと、来季はもっと苦しい戦いになるのではないかな、と。同様に、守備をもう少し何とかしないと、いつまでも#25ビクトルのビッグセーブに頼るのは、如何なものかと…(苦笑)。また、ほぼレギュラーが固定されているという聞こえは良いけれど、要は選手層の薄さが問題です。リーグ終盤は明らかに選手が疲弊しているように見受けられます。少なくとも、あと数人は選手数を増やさないと、42試合を戦い抜く事は難しいかなと思います。

練習環境など設備面での向上も必要です。一朝一夕では無理なのは承知していますが、昨年クラブハウスが完成したとはいえ、まだまだ足りない設備は多いのですから、継続した改善が望まれます。

…等々と、色々と来季への課題を挙げてみましたが、「今年のFC岐阜は変わった」というインパクトを与えることに成功したと思います。問題は、おそらく継続されるであろう、大木監督体制2年目の“積み上げ”でしょう。まあ、ぶっちゃけた話、昨シーズンは最終節によやくJ2残留を決めたチームでしたから、今年の個人的な目標は「最速でのJ2残留」でした。そして、その目標をチームは達成してくれました。来季は、さらなるクラブ・チームの発展を。僕は、その“積み上げ”に大いに期待していますし、それを見ることが、今から楽しみです。

(ささたく)

●Jに参入してから、たぶん初めてと言っていいくらいのシーズンを過ごしました。

ウチが主導権を握り、能動的に試合を動かしている……。昨季までは見ているのがツラくなる事が多く、受け身になるが故のムダな反則を繰り返し、それが失点、そして敗戦に直

結する。挙句に出場停止とかでした。ところが、今季途中までは、ホントにウチか？と思うくらい、J2の中でも反則ポイントが少なかった。かなりの上位に付けてました。アメージングですw。最近は順位をかなり落としているようですがw

w。
確固たるコンセプトの下、筋の通った指導。それを具現化していく選手達。新入団の選手はもとより、以前から所属している選手達もシーズンが深まるにつれ、成長していく姿を目の当たりにしました。そして、クラブ最速での残留確定。もちろん、クラブの目標はソコではありません。ただ、残留争いに馴らされてしまったボクにとっては夢のような一年でした。

しかしながら、一年を振り返って残念に思い、かつ、不満に思うことがあります。それは「やってるサッカーから受ける印象と成績が乖離している。」こと。これに尽きます。見ていてワクワクする。楽しい。また、見に来よう。そう思う方も多かったのではないのでしょうか。かくいうボクもそうでした。なのに、この結果。この順位。さらに残り2試合となった現時点で、今季の勝利数は昨季のソレに届いていません。これは、いったいどういうことなのか？何を意味するのか？いろいろ考えなければならないことがあるようです。幸い、来季のステージは『J2』と確定しています。洗い出すことを洗い出し、手を打つべきところに手を打つ。ある意味、来季はすでに始まっています。お題目ではなく、現実としての『J1』。ソコを目指すのであればやるべきことがある。やるべきことは、まだ多い。これからの行動に期待しつつ、自分も少しでも力になりたい。そう思ってやみません。(ぐん)

●とてもとても評価のむずかしいシーズンだった。今季からFC岐阜が取り組んでいる、徹底的なポゼッション志向、徹底的なパスサッカー。良く言えば『魅力的』で、悪く言えば『非効率』。今季に関しては、後者に傾いた評価にならざるを得ない。

パスは目的ではなく手段だ。まず、ここから始めよう。これを前提として。パスは手段だとして、その目的は、「相手のゴールを奪うこと」とするなら、1ゴールあたりの成功パス数が多過ぎる。「相手からゴールを奪われないこと」とするなら、ボール支配率の割に失点が多過ぎる。これを『非効率』と形容しても、特に怒られることはないだろう。

サッカー・リーグで標準的な評価基準は『試合内容』ではなく『試合に勝つこと』であり、それは無視出来ない。現時点で、カツカツで残留を決めた昨季の勝利数に届いていないことは、キチンと認識しておかなければならない。

たしかに、特にプロ・サッカーにおいては、観客に「また来ような」と思わせるもの、即ち“エンターテインメント”を提供することはとても大事な要素だ。その点、今季の大木サッカーは評価が高かった。岐阜の中より、岐阜の外で高かったように思う。「いまは勝ち点を逃がすことが多い。でも、完成したらとても面白いサッカーになる」。なんか、嬉しいよね。

でも、そこに地雷が埋まっている。「完成したら面白くなる」。仮定に過ぎないのだ。これは、否定ではなく質問。大木サッカーは、いつ完成するのか。いつ完成したと言っていくくらいの内容になるのか。世界にあまたあるサッカーチームのあまたいる監督が諦めた、魅力的だけど効率度外視のド派手なサッカー。その完成を目指して、ぼくらは、FC岐阜は、効率最優先を研ぎ澄ませた相手と闘うべく、荒海に再び乗り出していくことになるのだ。(吉田铸造)

編集人から一言。

●10周年。通巻200号。どれも、読んでくださる皆様のご支持、クラブの協力がなければなしえなかったことです。まずは、厚く御礼申し上げます。今季はFC岐阜がJ参戦して最速の残留決定でした。おかげで、ついに『岐大通』で「J3順位表」を掲載しなくて済みました。

現時点では来季も発行予定ですが、御多間に漏れずこちらも担当メンバーの高齢化(笑)が進んでいます。『岐大通』の発行を手伝った！という若人がいましたら、是非とも配布スタッフにお声をお掛けください。

では、またスタジアムでお会いしましょう。
(編集人：吉田铸造)

